

いのちの言の葉

「人と自然、社会の中で、つながり合うかけがえのないいのち」
(生活科、総合的な学習の時間) 平成20年度 富山市立神通碧小学校 1～6年

富山県教育委員会 平成20年度いのちの教育支援事業 平成20年7月15日実施

「みんな生きているんだ」

野鳥観察や疾病鳥獣の救護などの体験を通して、子のいのちを守る親の努力や工夫、いのちの大切さについて大田先生にお話していただきました。

大田 保文先生のプロフィール

- ・ 38年間にわたり、愛鳥教育の推進、ツバメやスズメ等の調査・研究成果の発表、野鳥保護思想の高揚等に多大な貢献と尽力
- ・ 今年度、愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」において、財団法人日本鳥類保護連盟総裁賞を受賞

心に残ったのは、ツバメの親が必死になってカラスや蛇から雛を守って育てていたことです。いのちの大切さが分かり、感動しました。

イヌワシのように力の強い鳥は、その力を何にでも使うのではなく、生きるためだけに使うという言葉が心に残りました。ぼくは弱い子がいたら、いじめるのではなく助けたいです。

スズメが桜の花の蜜を吸うとは知りませんでした。スズメも卵を産んだりヒナを育てたりするのに栄養をとらなければならないのだな。

ぼくたちの学校には、毎年ツバメがいっぱい来て巣作りをします。ツバメの親ってすごく思いやりがあるんだなと思いました。鳥がとても好きになりました。いのちって大切だなと思いました。

【内容】

- ・ 草刈機の犠牲になった母カモに代わり、卵をかえして、小学2年生とともに教室で生活した体験談
- ・ 傷ついたイヌワシを自然に返すまで手当てや世話をした話
- ・ ツバメやスズメの生態を観察・研究して分かった逸話
- ・ 学校でうさぎやかめを飼育したときの子供たちの様子等

親鳥が見守っているの、「ヒナが落ちてもしかないで！」と言われた意味が分かりました。ツバメの親は、いのちをかけてヒナを育てている。すごい。

2年生の人たちが一生懸命育てたカモが、がんばって階段を上がって教室へ行こうとしていて、すごいなと思いました。

スズメのお父さんとお母さんは、自分を犠牲にして育てている。どんな小さないのちでも大切だと分かった。